

<令和8年2月3日（火） 教育長定例会見>

<令和8年度の取組>

教育環境の充実は、子どもたちや佐賀県にとって重要なテーマです。知事ともよく話し合い、知事部局と連携して考えてきた令和8年度の取組をご紹介します。

佐賀県教育大綱 Vol.3

教育大綱に掲げた理念は、「自分で自分のことを決められる子どもに育てたい」です。この実現に向け、令和8年度も様々な取組を進めていきます。

子どもに向き合う基本的な姿勢として「ほめるから、はじめる。はじまる。」が合言葉です。子どもの力を信じる、認める、子どもの挑戦をリスペクトする姿勢。肯定的に子どもに向き合う考え方を「ほめる」という言葉に象徴しています。

これからも子どもの挑戦を応援していきたいと考えています。

佐賀らしい探究学習推進事業

県立学校では、探究学習を推進しています。その際、やはり課題が出てきます。生徒の興味・関心は、多くの分野に広がっているため、それに応えるためには、外部の力も大切になります。また、指導に当たる先生も、これまでとは勝手が違います。ティーチングに加え、コーチングスキルなどが求められます。そこで、専門的なアドバイスが受けられる研修や支援の態勢を構築します。

まず、教育委員会事務局にプロジェクトチームを設置し、スーパーバイザーやコーディネーターを配置。専門家から助言が受けられるよう、県内の大学や企業などと連携する体制を確立します。

コーディネーターが学校に出向き、外部機関・人材との調整や活動の支援を行います。伴走支援を行うのは4つの高校を想定。対象校では専門家による校内研修を、また、県内各学校を対象にした探究学習のリーダー研修も行います。

また、異なる学校の生徒が集まって探究強化合宿を行います。他校の生徒同士がチームを組み、フィールドワークや探究活動に取り組みます。新しい視点や考え方に刺激を受け、専門のチューター指導の下、スキルを磨いていきます。目標は、「自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ人材！」生涯を通して、そのような人材になってほしいと考えています。

生徒の多様な学びや、トライ・アンド・エラーを重ねられる環境をつくります。そのために、先生方にも探究学習を深めてもらう取組となっています。

これからの学校プロジェクト

現在、学校は教育観の転換が求められています。一斉授業が主体の教育から、1つの課題の解決に向け協働していく学び、主体的な学びを深めていこう、という流れです。

学校には、様々な教育課題や教職員の働き方改革も求められています。ほかにも、周囲からは期待があり、学校や児童生徒への思い込みや当たり前前に縛られやすい状況です。「本当にそれって、子どもたちのためになっている？」と考えたとき、今まで丁寧に指導してきたことが、自立や主体性を育むという観点でみると、先回りや手の出し過ぎであるかもしれません。

国が言うから、教育委員会が言うからではなく先生方が本音で語り合い、子どもの主体性を引き出す取組に必要なことや学校が目指す目標を話し合っていたいただきたい。その実現に向けて、教職員の一人ひとりが納得感をもって改革を進めていけるよう環境をつくりたいと思っています。

具体的には、

- ・学校改革に知見のある専門家による講演
- ・外部コンサルタントによる伴走支援
- ・県や市町教育委員会の職員への伴走ファシリテーター養成
- ・保護者への理解促進

教職員が、やりがいを持って新しいことにチャレンジできるよう、県と市町教育委員会とで県下全域を対象に応援していきます。

子どもたちの豊かな学びを環境から応援します！

SCHOOL*COOL プロジェクトでは、全県立学校の体育館に大型スポットクーラーを2台ずつ設置します。また、体育館の稼働率が高い3校には、空調設備を整備。令和8年度が設計、令和9年度に工事予定。

スワルとアガル プロジェクトは、トイレの洋式化です。トイレが和式から洋式になると、視線が上がり快適性も上がるので、このネーミングになりました。洋式トイレの順番待ち解消のため、3年間で16棟を集中整備します。

快適な学校生活を送ることができるよう、施設面からの環境整備に努めます。

子どもたちの豊かな学びのサポート体制を強化します！

1つめが、チーム担任制。県内9校のモデル校で実施中です。同じ学年の2つの学級を3人で受け持ったり、複数の学年の複数学級を複数の教員で受け持ったりするなどの方法です。子ども理解の促進のほか、教員がチームでコミュニケーションを取ることで、組織力向上や人材育成にもつながっています。

2つめは、1学級35人以下の少人数学級の推進。県では、国に先駆けて少人数学級を実施しています。令和8年度は、中学校2年生を少人数学級に、中学校3年生は少人数またはティームティーチングのいずれかを学校が選択できる選択制を導入します。

市町立中学校の全学年で、きめ細かな指導を実現できる環境を整えます。

教員が生き活きと子どもたちに向き合える環境づくりを応援します！

子どもたちの豊かな学びを支えるためには、先生が生き活きと子どもたちに向き合える環境づくりが重要になります。これまでの取組として、

チーム学校の体制づくり

- ・チーム担任制：若手教員や先生同士が相談しやすい環境
- ・悩みステーションの開設：24 時間体制

働き方改革の推進

- ・時間外在校等時間の上限設定
- ・教員業務支援員など外部人材の活用：業務に専念できる
- ・出退勤管理システムを含む管理システム：業務のデジタル化

教員の魅力発信

- ・教員採用に関する専用サイト、SNSを活用した情報発信
- ・大学生教職体験プログラムの実施、活動動画の発信

これからも、佐賀県の教員になってよかった、佐賀県の教員になってみようと思ってもらえる取組を充実させていきます。

多様な人材を確保する取組を進めています

教員としての一歩を安心して踏み出すための取組を進めます。

- 1) 教員採用試験合格者へ採用される年の1月から毎月、説明会・研修会を丁寧にやります
 - ・オンライン説明会
 - ・対面での研修会、仲間づくり
 - ・学校見学
- 2) チャレンジ受験の合格者へのオンライン説明会
 - ・2次試験までのスケジュール、県内学校の状況、福利厚生などの説明
 - ・合格者の疑問点への対応

多様な人材を幅広く募集します。

- ・特別支援学校教諭等を小・中・高の3区分で選考
- ・秋の選考試験で短大生を含めたチャレンジ受験を実施

唯一無二の誇り高き学校づくり！

令和3年度からの取組の結果、地域への愛着や誇りが高まり、自分の学校を中学生に勧めたい生徒の割合が増加。県外からの入学者も増加しています。

唐津青翔高校では、県立高校で全国初のeスポーツ学科が始まります。プロのゲーマーだけでなく、ストリーマー（配信）、ゲームクリエイター（プログラミング、絵を描く・ストーリーを考える人など）、イベント運営に関することなど様々なデジタル技術

について学びます。デジタル社会の下で、新しい価値を創り出すような人づくりを行っていきます。

唐津地区の寄宿舍「深青寮（しんせいりょう）」は、令和6年度に離島の生徒の受け入れを開始。令和7年度からは、県外生徒の受け入れを開始。同年度内に食堂を整備。令和8年度から本格稼働となります。

令和8年4月鳥栖特別支援学校が開校します！

校訓、学校目標にあるように、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな教育の実践、自立と社会参加につながる地域社会に開かれた教育の充実を行っていきます。

地域とのつながりを大切にするため、地域交流スペースを充実。校内マルシェや専用の部屋で校内カフェも開催していきます。

特別支援学校では、自立に向けた作業活動に取り組んでいます。鳥栖の地域特性を生かした物流や農業のほか、県内の特別支援学校では初となる介護を学習するための教室を設置しています。学校間交流や教科等の指導にも力を入れていきます。

開校記念式典は、令和8年4月25日です。

全国産業教育フェアを佐賀県で初開催！

未来の産業を支える高校生たちの大会。専門高校の生徒が、日ごろの学習成果を競い合います。ロボット競技大会、意見・体験の発表、フラワーアレンジメントや料理、ビジネスアイデア、介護技術コンテストなど。来場者が楽しめる体験や展示、販売ブースもあります。

大会を支える高校生は、県内32校の専門高校生たち。ステージ運営、広報グッズ製作、競技運営、体験ブース、販売、会場案内などを準備。高校生が主体的につくる大会です。さんフェア2026は、小学生や中学生、ご家族で楽しめます。多くの方にご来場いただきたいと思ひます。